

夏秋ピーマン栽培暦



重点目標 日当たりがよく、排水性・通気性に優れ、連作でない土地を選び、土づくりを徹底する。
かん水を十分行い、肥料切れさせないよう追肥を行う。
病害虫の早期発見に努め、適正防除と正確な記載に努める。

作	型	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
露	地栽培										

■：土づくり資材投入 ●：基肥投入 ○：定植 ■：収穫

品種：かがやき 中早生種。樹勢旺盛で、多収性。果実は中長型、濃緑で光沢がある。TMV強健性があり、青枯病、疫病に強い。

2月	中		3月	4月	5月上旬	5月中旬	5月上旬																									
	下	上																														
<p>土づくり</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="3">土づくり例(10a当たり投入量)</th> </tr> <tr> <th>資材名</th> <th>投入量</th> <th>(ピーマンの特性)</th> </tr> <tr> <td>堆肥</td> <td>2,000kg</td> <td>乾燥に弱く、根張りが比較的狭く、浅いので土壌水分が不足すると生育・収量に大きく影響するので有機質に富む排水性のある土壌が適する。</td> </tr> <tr> <td>ナシコンクベレット</td> <td>450kg (30袋)</td> <td rowspan="2">また、かん水による過湿条件にも弱く、疫病の発生原因となるため排水対策に注意する。</td> </tr> <tr> <td>嵩土</td> <td>100kg (5袋)</td> </tr> <tr> <td>嵩土</td> <td>100kg (5袋)</td> <td>排水のよい、耕土の深い土地を選び、30cmを目安に深耕する。堆肥等、土づくりの資材は遅くとも定植1ヶ月前までに全面施用し、すきこんでおく。</td> </tr> <tr> <td>ハイクローンゴースト</td> <td>45kg</td> <td></td> </tr> </table>								土づくり例(10a当たり投入量)			資材名	投入量	(ピーマンの特性)	堆肥	2,000kg	乾燥に弱く、根張りが比較的狭く、浅いので土壌水分が不足すると生育・収量に大きく影響するので有機質に富む排水性のある土壌が適する。	ナシコンクベレット	450kg (30袋)	また、かん水による過湿条件にも弱く、疫病の発生原因となるため排水対策に注意する。	嵩土	100kg (5袋)	嵩土	100kg (5袋)	排水のよい、耕土の深い土地を選び、30cmを目安に深耕する。堆肥等、土づくりの資材は遅くとも定植1ヶ月前までに全面施用し、すきこんでおく。	ハイクローンゴースト	45kg						
土づくり例(10a当たり投入量)																																
資材名	投入量	(ピーマンの特性)																														
堆肥	2,000kg	乾燥に弱く、根張りが比較的狭く、浅いので土壌水分が不足すると生育・収量に大きく影響するので有機質に富む排水性のある土壌が適する。																														
ナシコンクベレット	450kg (30袋)	また、かん水による過湿条件にも弱く、疫病の発生原因となるため排水対策に注意する。																														
嵩土	100kg (5袋)																															
嵩土	100kg (5袋)	排水のよい、耕土の深い土地を選び、30cmを目安に深耕する。堆肥等、土づくりの資材は遅くとも定植1ヶ月前までに全面施用し、すきこんでおく。																														
ハイクローンゴースト	45kg																															
<p>定植準備</p> <p>基肥は定植15日前までに全面施用し耕起する。 有機入り スーパーロング413 805号 (10-6-7) スーパーロング413 180日タイプ(14-11-13)</p> <p>排水性をよくするため高畦にする。 シルバーマルチは遅くとも定植10日前に被覆し、あらかじめ地温を上げておく。被覆前に十分かん水し、湿った状態にしておく。かん水チューブを畦ごとにマルチの下に配置する。圃場の周辺に排水溝を設け、大雨時の早期排水をはかり、畑にかん水しないようにする。</p> <p>基肥 施肥例(10a当たり投入量)</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">肥料名</th> <th rowspan="2">施用量(10a当たり)</th> <th colspan="3">成分(kg/10a)</th> <th rowspan="2">方 法</th> </tr> <tr> <th>N</th> <th>P</th> <th>K</th> </tr> <tr> <td>有機入り特A805号 (10-6-7)</td> <td>120kg (6袋)</td> <td>12</td> <td>7.2</td> <td>8.4</td> <td rowspan="3">全面施用し耕起する。</td> </tr> <tr> <td>スーパーロング413 180日タイプ(14-11-13)</td> <td>50kg (5袋)</td> <td>7</td> <td>5.5</td> <td>6.5</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>19</td> <td>12.7</td> <td>14.9</td> </tr> </table>								肥料名	施用量(10a当たり)	成分(kg/10a)			方 法	N	P	K	有機入り特A805号 (10-6-7)	120kg (6袋)	12	7.2	8.4	全面施用し耕起する。	スーパーロング413 180日タイプ(14-11-13)	50kg (5袋)	7	5.5	6.5	計		19	12.7	14.9
肥料名	施用量(10a当たり)	成分(kg/10a)			方 法																											
		N	P	K																												
有機入り特A805号 (10-6-7)	120kg (6袋)	12	7.2	8.4	全面施用し耕起する。																											
スーパーロング413 180日タイプ(14-11-13)	50kg (5袋)	7	5.5	6.5																												
計		19	12.7	14.9																												
<p>定植</p> <ol style="list-style-type: none"> 購入苗を使用する。 苗は、無病で徒長しておらず、一番花が開花直前ものを定植する。 ポット苗は定植前日の午前中に十分かん水しておく。 早植えの場合は、ビニールでマルチを被覆し、活着促進のための温度維持と晩霜対策を行う。 定植時の地温は16℃以上必要であるため、無理な早植えはしない。 定植は晴天無風の午前中がよい。 第一分枝が畦に対して直角になるようにし、ポットの上部1cm程度がマルチより上に上がるように浅植えにする。 アブラムシ、アザミヤカ類防除のために粒剤を施用する。 定植直後に倒伏防止のため、60cm程度の支柱を立てる。 定植後は十分かん水し、活着までは乾燥しないように注意する。 																																
<p>生育判断</p> <p>短花柱花は、着果不良の原因になり、水分不足や肥料切れで草勢が落ちた時に多く発生する。短花柱花が増加したときは、追肥を行うとともに着果数を減らし、草勢を回復させる。開花位置が先端に近い場合は、M級を中心に若取りを行うとともに、追肥を行う。</p> <p>生理障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 尻腐れ果：果実の側面に、黒褐色のやや陥没した斑点ができる。石灰欠乏による生理障害である。発生条件は、高温・乾燥が主要な誘因であり、多肥による塩類集積による根傷みも発生を助長する。対策は有機物施用による土壌改良と共に、石灰と拮抗作用のかりや窒素は過剰施用にならないよう注意する。敷きワラ等で地温を下げ十分かん水すると共に、早めにカルシウム剤(ヌイカル等)の葉面散布を行う。 ● 日焼け果：高温強光時に発生する。乾燥に注意すると共に、遮光資材で日除けする。 ● 変形果：受粉の異常により発生する。ピーマンの花粉の発芽温度は10℃以下と35℃以上では極端に悪くなるため、保温と遮熱に注意する。 ● 変色果：暗赤色部分が発生する症状であり、これは果実の肥大期に13℃以下の低温に遭うと発生しやすい。 																																

4月中旬	5月上旬	5月中旬	5月上旬																									
定植	管理・収穫・出荷	管理・収穫・出荷	管理・収穫・出荷																									
<p>① 摘果・摘芽 一番果は親指の大きさになるまでに摘み取る。第一分枝以下の側芽は早めに摘み取る。分枝した枝で、勢いのある3〜4本を残し、それ以外のわき芽は摘み取り、歪の形に仕立てる。不良果は早めに摘果する。</p> <p>② ネット誘引 草丈が60cmになる前に早めに張っておく。ネットの両端にナイロン線を通し、たるまないように張る。</p> <p>③ 整枝・剪定 病害予防のため晴天時の午前中に行う。混み合った枝、あとこ枝、徒長枝などは除去し、主枝と主枝の間隔を保って、株全体に日光が当たるようにする。剪定した枝や果実は圃場外へ持ち出す。</p> <p>④ かん水 かん水は早朝または夕方に行い、日中は避ける。土壌水分が不足すると、収量が低下するとともに尻腐れ果・日焼け果等が発生しやすくなるので、かん水をこまめに行う。梅雨明け以降は睡眠かん水を行うが、長時間かん水させないこと。</p> <p>⑤ 敷きワラ 梅雨明け後、マルチの上に敷きワラをし地温の上昇を防ぐ。</p> <p>⑥ 追肥 2〜3番果の収穫ごとに第1回目を有機入り肥料で追肥を行い、その後生育をみながら15日ごとに10a当たり窒素成分で2〜3kg施用する。最初の3回は穴肥にする。</p> <p>追肥 施肥例(10a当たり投入量)</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">肥料名</th> <th rowspan="2">施用量(10a当たり)</th> <th colspan="3">成分(kg/10a)</th> <th rowspan="2">方 法</th> </tr> <tr> <th>N</th> <th>P</th> <th>K</th> </tr> <tr> <td>NK化成808号(18-0-18)</td> <td>60kg (3袋)</td> <td>11</td> <td>0</td> <td>11</td> <td rowspan="3">1回当たり10〜15kg施用する。 1回当たり15〜20kg施用する。</td> </tr> <tr> <td>有機農太郎(6-8-3)</td> <td>100kg (5袋)</td> <td>6</td> <td>8</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>17</td> <td>8</td> <td>14</td> </tr> </table> <p>⑦ 病害虫防除 使用農薬については毎年配布している防除暦を参考にし、使用基準を遵守する。</p> <p>⑧ 収穫 取り遅れないよう適期収穫を行い、午前中に終わる。</p>				肥料名	施用量(10a当たり)	成分(kg/10a)			方 法	N	P	K	NK化成808号(18-0-18)	60kg (3袋)	11	0	11	1回当たり10〜15kg施用する。 1回当たり15〜20kg施用する。	有機農太郎(6-8-3)	100kg (5袋)	6	8	3	計		17	8	14
肥料名	施用量(10a当たり)	成分(kg/10a)				方 法																						
		N	P	K																								
NK化成808号(18-0-18)	60kg (3袋)	11	0	11	1回当たり10〜15kg施用する。 1回当たり15〜20kg施用する。																							
有機農太郎(6-8-3)	100kg (5袋)	6	8	3																								
計		17	8	14																								

◎作業・防除日誌を必ず記録しましょう。

収穫目標：10,000kg / 10a (約60,000袋)